

継続教育における倫理教育の現状と今後のあり方

(株)建設技術研究所 正会員 村田和夫（継続教育実施委員会幹事長）
 日本工営(株) 正会員 佐々木寿朗（継続教育実施委員会幹事）
 日本大学 理工学部 正会員 岩井茂雄（継続教育実施委員会幹事）
 土木学会技術推進機構 正会員 片山功三（前 継続教育実施委員会幹事）

1. 継続教育における倫理教育の現状

1.1 テーマ選定の経緯

近年の国際化、あるいは技術や倫理観の欠如に関わる事件・事故が多発する中で、技術者に対しても常に最新の技術や知識を継続的に習得し、自己の能力の維持・向上を図るとともに、倫理観をもって行動することが公益確保の観点からも求められている。

土木学会では、平成13年度に継続教育制度を立ち上げた。継続教育実施委員会では、技術倫理あるいは技術者倫理といったテーマは今後の技術者の継続教育プログラムとして不可欠であるとの認識のもと、具体的な倫理教育の進め方を検討した。

その結果、倫理教育そのものがまだ馴染みの薄い分野であり、単独では行事が成立しにくいとの判断から、「継続教育制度創設記念講習会」と銘打って全国各地で実施するにあたり、倫理教育に加えて、各地域に関係の深いテーマ（社会資本整備動向や地域を取り巻く諸環境等）を考え、支部と技術推進機構との共催で実施することとした。

この「記念講習会」では、全体の統一テーマを「これからの技術者像と地域の安全・安心を考える」としたが、支部の要望により、東北支部では「地域開発の先駆者とこれからの技術者像を考える」に、中国支部では「21世紀の技術者像と地域の安全に向けて」とした。いずれにしても、「これからの技術者はどうあるべきか」を考える講習会という点では、各支部とも一致している。

1.2 平成13年度の倫理教育の実施状況

平成13年度に全国各地で実施した「継続教育制度創設記念講習会」の個別テーマ及び講師の方々は下表のとおりである。

表-1 平成13年度の「継続教育制度創設記念講習会」実施状況

開催日	支部	テーマ	講師	所属
2001年9月18日	中部	中部地域を取り巻く地震危険度の現状と防災システムの開発	谷口 仁士	名古屋工業大学 教授
		倫理規定制定の背景と土木技術者像	高橋 裕	東京大学 名誉教授
		中部地方における社会資本整備の動向について	望月 常好	国土交通省中部地方整備局 企画部長
2001年10月18日	四国	四国地方におけるコンクリート構造物の耐久性とライフサイクルコスト	松島 学	香川大学 教授
		私の好きな土木技術者像～青山士と宮本武之輔	高崎 哲郎	帝京大学短期大学 教授・作家
		四国地方における社会資本整備の動向について	坂口 哲夫	国土交通省四国地方整備局 企画部長
		藩政時代の土木技術者川村孫兵衛	石垣 宏	宮城県立石巻高等学校 教諭
2001年10月29日	東北	倫理規定制定の背景と土木技術者像	高橋 裕	東京大学 名誉教授
		東北地方における社会資本整備の動向について	大内 忠臣	国土交通省東北地方整備局 企画部長
		近畿地域を取り巻く災害危険度と対応	河田 恵昭	京都大学防災研究所 教授
2002年2月15日	関西	これからの技術者像と技術者の倫理	札野 順	金沢工業大学 教授
		近畿地方における社会資本整備の動向について	鈴木藤一郎	国土交通省近畿地方整備局 局長
		水理学の視点に立った治水と環境の調和した川づくり	福岡 捷二	広島大学大学院工学研究科 教授
2002年2月19日	中国	技術者倫理の21世紀の視点－デ・レイケ 在日30年のメッセージ	上林 好之	オランダ人技術者業績研究会 代表
		中国地方における社会資本整備の動向について	長谷部正和	国土交通省中国地方整備局 企画部長
2002年3月5日	西部	九州地方における近年の自然災害とその教訓	平野 宗夫	九州大学 名誉教授
		技術者倫理の21世紀の視点－デ・レイケ 在日30年のメッセージ	上林 好之	オランダ人技術者業績研究会 代表
		九州地方における社会資本整備の動向について	熊谷 清	国土交通省九州地方整備局 企画部長
2002年6月7日 （予定）	関東	私の好きな土木技術者像～青山士と宮本武之輔	高崎 哲郎	帝京大学短期大学 教授・作家
		都市再生について	清水喜代志	国土交通省 都市・地域整備局都市計画課企画専門官
未定	北海道	（未定）		

1.3 倫理教育の概要

倫理教育の講師は「土木技術者の倫理規定」の作成にあたられた土木学会倫理規定制定委員会高橋裕委員長他、技術者と倫理について造詣の深い3名の方々にお願いした。

今回の講習会における講師の方々の技術者倫理教育の内容を振り返ってみると、次の2通りに大別することができる。

一つは、これまでの偉大な先哲の思想やその具体的行動を紹介し、それらから垣間見ることの出来る土木技術者の倫理を今後に生かそうとする教育である。本講習会で紹介されたのは、明治時代（新生日本）の土木工学を築いた青山士、宮本武之輔、古市公威、廣井勇、田辺朔郎、デ・レイケなどの偉大な先輩諸氏であり、国際人であった。

もう一つは、技術者の倫理教育の必要性を体系的に説明したものであり、技術者教育の現状、技術者（engineer）の社会的責任と倫理教育、技術者倫理の体系と事例分析の必要性などを踏まえて今後の技術者としての在り方を考えさせる教育である。

今回実施した講習会では、普段接することの多い他の2テーマに比べ、倫理教育に対する参加者の評価を心配したが、講演者の話術の冴も手伝って、概ね好評であった。

2. 今後の継続教育における倫理教育

30年以上前に受けた高校の倫理社会の授業は、ギリシア哲学からサルトルまでの哲学の流れを網羅的に暗記しただけであった印象が強い。哲学（人生の根本原理）を教える側にも教えられる側にも、「何を学んでほしいか、何を学びたいか」について明確な考えがなかったようにも思われる。一番感受性の強い年頃に、家庭教育においても学校教育においても「哲学や倫理」について基礎的な教育ができていないとすれば、遅ればせながら大学や社会という場で「倫理教育」を実践する必要があるだろう。とりわけ公益確保の責任をもった技術者にとって倫理教育は必要不可欠と言えるからである。

倫理教育は、一度聞けば全て分かったというものではない。今回の講習会でも述べられているように、倫理が「行為」の善悪・正不正に関する規範体系に関する考察であるとすれば、「行為」の対象や範囲が変化・拡大するパラダイムの変革期であればなおさら「倫理」が問われることになるはずである。その意味では、迷いが生じたときに、国を越え、時間を越え、人類及び地球環境を考えて行動した先人の行動に勇気づけられ、技術者倫理の必要性和体系を理性で考え、具体的事例によるガイドライン（研究・教育・事業企画構想・設計・工事などの様々な現場の事例を通じた疑似体験）などで技術者倫理を学ぶ機会を用意しておくことはまさしく今日の要請と言える。

今不足しているのは、土木技術に関する多くの失敗事例などを収集・分析し、土木技術者としての倫理的行動を示すガイドラインであり、これらを示したテキスト作りが、土木学会の仕事の一つと考えられる。

技術者として生きることは、専門家としての責任と義務を伴うことになるが、これは社会的な評価（地位や報酬）の裏返しである。継続教育によって、絶えず技術者として技術力を向上させることを前提として、技術及びそれを実践する技術者に対する人々の理解を得られるよう努力することが必要であろう。

参考文献：継続教育制度創設記念講習会テキスト（各支部別講習テキスト全6冊） 土木学会編

キーワード：継続教育、技術者倫理、倫理教育、公益確保

連絡先：村田和夫、〒103-8430 中央区日本橋本町 4-9-11 第9中央ビル、TEL03-3668-0451、FAX03-5695-1886